

## ウズベキスタン便り

寺尾 千之

大崎さんご夫妻が、地元の子どもの声に  
 応えてNORIKO学級をリシタン市に創設したこ  
 とは、よく知られています。実は「設立動機  
 にはもう一つ大きな理由があります」と「明  
 日の友」(婦人の友社'02年137号)に、奥様  
 の紀子さんが記しています。「夫は現地で手  
 入れの行き届いた日本人墓地を見て、ウズベ  
 ク人の温かい気持ちに感謝の念が湧いた」と  
 あり、国内に8か所あると言われている日本人墓地のうち、タシ  
 ケント、コカンド、アングレンの墓地(写真はコカンドの日本人  
 墓地)を、よく訪れ「今、平和に過ごせるのは皆さんのおかげで  
 す。皆さんの死を無駄にしないよう努力します」と墓前にお線香  
 を手向けていたということです。

実際、重勝さんは、学級運営の傍ら、関係者から聴きとった内  
 容を頻りに知らせてくれていました。ガニシエル校長の従兄  
 (1946年生まれ)が、お母さん(コカンド在住)から聞いた話と  
 して「コカンドは古い町(スターリ・ゴラド)が中心で新しい  
 町(ノービー・ゴラド)を建設中であった。みなさんはノー  
 ビー・ゴラドの建設に従事されたようです(陸橋・銀行の建  
 設)。日本人は大変頭が良い、だからグループで住んでいて井戸  
 を掘り電気まで起こしていた(どんな発電機かは不明です)。当  
 時、ソ連兵の上級者のみが靴を履いていた、一般人は、履き物は  
 なかった。日本人は木で履き物を作った(下駄と思います?)。



当時、道は舗装されてなく小砂利が敷いてあつ  
 た、だから朝と夕方に並んで仕事場への行き帰り  
 に『カラン・カラン』と音がする、と母たちは時  
 計代わりに時間が分かったと言っていた。一般家  
 庭に、井戸・時計・電気等はなかった田舎町だつ  
 た('01年受信、原文のまま)や、アングレン  
 から帰還された石川県七尾市在住の元看護兵の話  
 として「戦友を埋葬している時にロバに乗ったじ

いさんが来た。『何をしているか?』『友を埋葬している』『そ  
 うか』と言ってロバから降りてひざまずいて、お祈りしてくれ  
 た。終わるまで続けてくれた。なんとやさしい民族なんだろうと  
 思った('01年受信、原文のまま)など、貴重な内容でした。

1966年のタシケント地震の際、多くの建物が倒壊した中、無傷  
 だった建物として有名なナボイ劇場(1947年完成)のプレート  
 に、ロシア語・ウズベク語・英語・日本語で「数百名の日本国民  
 が建設に参加し、その完成に貢献した」との一文があります。そ  
 のプレートの前で記念撮影をする日本人観光客を見かけることが  
 多いです。一方、抑留者と交流があった各地の地元民は、大家族  
 で暮らす中で、彼らの子孫に「日本人は頭がいい。勤勉だ」と折  
 に触れて当時の様子を語り継いでいるようです。

日本とウズベキスタンの友好交流の原点は、抑留者との心温ま  
 る交流や、敬意の気持ちにあったのかもしれない。

(リシタン・ジャパンセンター事務局長)

## 国際放送史研究の戯言No.012

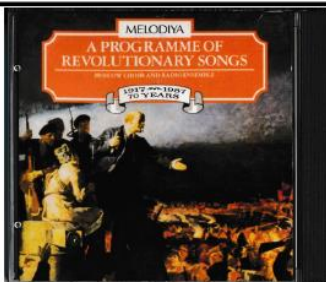
## 自由で優しい「インターナショナル」

島田 顕

ピエール・ドジュイテール作曲「インター  
 ナショナル」。いわずと知れた革命歌であ  
 る。パリ・コミューンの最中に生まれ、世界  
 中で歌われるようになった。ロシア革命後  
 には新生社会主義国家の国歌となる。だが第  
 二次世界大戦中にソ連国歌が改められ、「イン  
 ターナショナル」は党歌として残された。こ  
 の歌が日本に伝えられると、戦前のプロレタ  
 リア演劇の中心的な演出家だった佐野碩が歌  
 詞を訳し、その訳詞が日本中で歌われるよ  
 うになった。ちなみに佐野碩は1930年に日本国内で逮捕され、翌年国外に脱出、32年  
 に演出家メイエルホリドを頼り入ソ、スターリン粛清により38年  
 にソ連を追われ、メキシコに亡命する。以後、終生日本に帰国  
 することなく、メキシコの近代演劇運動に大いに貢献した。

この歌のことを書きたいと思った。先日NHK・BSPの番組「クラ  
 シック倶楽部」で、作曲家の武満徹の編曲による「ギターのため  
 の12の歌」の演奏を耳にしたからだ。この演奏は、アイルラン  
 ド民謡「ロンドンデリーの歌」に始まり、ガーシュインの「サ  
 マータイム」、中田章の「早春賦」や、ビートルズの「ミッ  
 シェル」「ヘイ・ジュード」「イエスタデイ」が続き、「イン  
 ターナショナル」によって締めくくられた。

この歌を初めて知ったのは大学に入ってからのこと。肩を組  
 んで、みんなで歌うのが常だった。また大学に近い神田神保町  
 のロシア専門レコード店で、第一曲に「インターナショナル」  
 が入っているレコード『レーニン愛唱歌集』を買った。「イン



ターナショナル」のロシア語の歌詞カードがコ  
 ピーでついていて、それでロシア語の歌詞を初  
 めて知った。レコードはロシアのレコード会社  
 メロディアによるもので、後にメロディアのCD版  
 も手に入れた。大学卒業後のスペイン旅行で、  
 スペイン語の「インターナショナル」が入った  
 カセットテープを購入した。横浜中華街の中国  
 語レコード店では、中国語の『中華人民共和國  
 国歌 国際歌』のカセットが売られていて、中  
 国語でも「国際歌」として歌われていることを知った。

「インターナショナル」は常に勇ましく歌われなければならない、という先入観があった。だが武満徹の「インターナシ  
 ョナル」はギターの演奏曲。何て自由なんだろう、と思った。そして  
 それは他のギター曲と同様に、優しい曲調だった。

実際のインターナショナルは、マルクス・エンゲルスの第一イン  
 ターナ、世界の社会民主党の集まりである第二インターを経て、  
 第三インター＝コミンテルン(共産主義インター)が結成された  
 が、コミンテルンは「民主集中制」という組織原理を採用したた  
 めに、自由で活発な意見交換を認めない硬直した組織となった。  
 暴力革命を肯定し、逸脱を許さず、粛清を行った諸悪の根源は  
 「民主集中制」だったのだ。

武満徹の「インターナショナル」は、未来のインターナシ  
 ョナルがギター曲のように、自由で優しいものでなければならないと  
 いうことを、暗示しているように思えた。